告　示

○総務省告示第七号

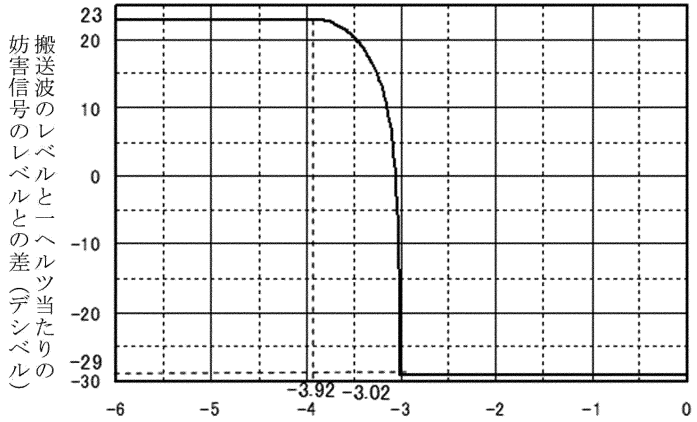
有線一般放送の品質に関する技術基準を定める省令（平成二十三年総務省令第九十五号）第二十条第二項の規定に基づき、平成二十三年総務省告示第三百十五号（有線テレビジョン放送等の受信に影響を与えることが検知されないための技術的条件を定める件）の一部を次のように改正する。

平成二十七年一月十六日　　総務大臣　山本　早苗

別図第三号から別図第五号までを次のように改める。

別図第三号　デジタル有線テレビジョン放送方式となっている有線テレビジョン放送等の下側周波数のスペクトルマスク

(1)　搬送波の変調の型式が六四値直交振幅変調である場合



搬送波の中心周波数と妨害信号の周波数との差（メガヘルツ）

注１　一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値（０dB）とする。

注２　スペクトルマスクの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数と妨害信号の周波数との差（MHz）をf、搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差（dB）をLとする。

・fが－3.92MHz以下の場合：$L=23$［dB］

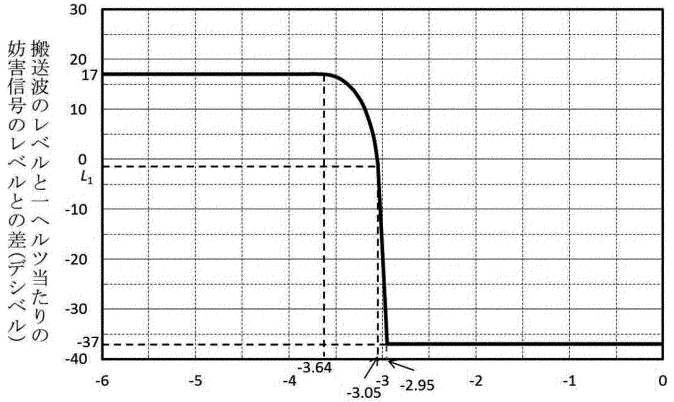
・fが－3.92MHzを超え－3.02MHz未満の場合：

$$L=23+20\log_{10}\left\{\sqrt{\frac{1}{2}\left(1-\sin\left(\frac{\pi}{2}\times\frac{2(f+6)-f_0}{\alpha\cdot f_0}\right)\right)}\right\}\quad[\mathrm{dB}]$$

なお、$f_0=5.057$［MHz］、$\alpha=0.18$とする。

・fが－3.02MHz以上の場合：$L=-29$［dB］

(2)　搬送波の変調の型式が二五六値直交振幅変調である場合



搬送波の中心周波数と妨害信号の周波数との差（メガヘルツ）

注１　一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値（０dB）とする。

注２　スペクトルマスクの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数と妨害信号の周波数との差（MHz）をf、搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差（dB）をLとする。

・fが－3.64MHz以下の場合：$L=17$［dB］

・fが－3.64MHzを超え－3.05MHz以下の場合：

$$L=17+20\log_{10}\left\{\sqrt{\frac{1}{2}\left(1-\sin\left(\frac{\pi}{2}\times\frac{2(f+6)-f_0}{\alpha\cdot f_0}\right)\right)}\right\}\quad[\mathrm{dB}]$$

なお、$f_0=5.360537$［MHz］、$\alpha=0.12$とする。

・fが－3.05MHzを超え－2.95MHz未満の場合：

$$L=-10(L_1+37)(f+2.95)-37$$

なお、$L_1=17+20\log_{10}\left\{\sqrt{\frac{1}{2}\left(1-\sin\left(\frac{\pi}{2}\times\frac{2(f_1+6)-f_0}{\alpha\cdot f_0}\right)\right)}\right\}$［dB］とする。

ここで、$f_0=5.360537$［MHz］、$f_1=-3.05$［MHz］、$\alpha=0.12$とする。

・fが－2.95MHz以上の場合：$L=-37$［dB］